

地域を耕すコンビニ

コンビニが地域づくりの主体となり、
「買い物する場所」から「地域コミュニティの場」へ。



背景

まちの至る所にある「コンビニ」。それは誰もが気軽に訪れ、買い物する人が集まる場所。特に地方でのコンビニは便利さが際立ち、買い物という面で影響力の大きい店である。しかし、地域とのつながりはほとんど見られない。そんなみせだからこそ、地方でコンビニが主体で地域貢献ができ、新たな機能を加えた「新しいコンビニのかたち」を提案します。

コンセプト

～地域の新しい「コンビニ」のかたち～

コンビニが地域をつなぐ

コンビニ × 農業 × フードバンク

コンビニ

「弁当の行き残り」や「ついではちまき」など、気軽に買える物。なんでも買える便利な店

地方の新しいコンビニ

便利な買い物、農業体験、食品問題の解決の場に地域コミュニティの形成
コンビニによる地域貢献

農業

地方の主要な産業。
農業に関わる人を増やす必要がある。

フードバンク

フードロス削減のための取り組み
食品の提供によって活動する人がある。

機能

・農業を通じた地域コミュニティの創出

地方の主要な産業である農業は地方の魅力でもあり、農業を通じたつながりが生まれれば、
地域コミュニティへの貢献に寄与できるのではないかと。

「地域の場」→コンビニの敷地内に設けた、地域の人々が自由に憩えて使える場
・「家庭菜園を広い畑でやりたい人」、「一人で農業を始める人には不安がある人」など様々な人が利用
・農家の人々による農業・園芸ワークショップを開催
→畑の利用者や農業に興味がある人への、体験しながら農業の知識を身につけてもらえる機会
農業を通じた地域コミュニティが創出されることが期待される。

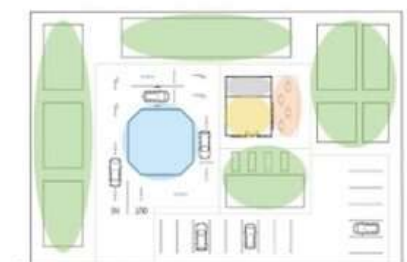
・フードバンクによる食問題解決

近年の主要な問題であるフードロスなどの食問題 →コンビニが解決の場
「フードバンク機能」→・地域の人々による賞味期限が近く余ってしまう商品や食材の寄付
・農家の人々による規格外の農作物の提供
→食に困る人や家計が苦しい人をはじめとした様々な人がそれを受け取ることができる。
フードロスを削減し、食の循環を促す。

・アプリで注文、ドライブスルーで受け取り

「コンビニアプリ」→欲しい商品を注文、フードバンクの現在の在庫を確認でき予約注文できます。
「ドライブスルー」→車に乗ったまま商品を受け取る。その場でタッチパネルで注文し受け取ることも可能。
完全無人で、注文された商品を在庫の棚から機械が自動搬送し、受取口まで届ける。

店舗



1階平面図



2階平面図